

※承認番号:

※受付番号:

新規 変更

学長殿

浜松医科大学動物実験規程第11条第1項に基づき、下記のとおり申請します。

1. 動物実験責任者

フリガナ	シンセイシャ9	所属	動物実験施設
氏名	申請者9	部局電話番号	****
e-mail	demo9@example.co.jp	緊急電話番号	***-****-**** 携帯電話番号
職名	准教授		
教育訓練登録番号	<input checked="" type="radio"/> 受講:demo9 <input type="radio"/> 未受講	e-APRIN(AP) (旧 CITI Japan Program(Ref#))	<input checked="" type="checkbox"/> 医学研究者標準コース(demo9) <input type="checkbox"/> 個別追加コースII ()

eAPRIN受講済みで受講番号が空欄の場合、研究支援係にお問合せください。
技術補佐員で飼育のみの人は受講なしでも構いません。

2. 所属長

フリガナ	シヨゾクチョウ1	e-mail	faculty1@example.co.jp
氏名	所属長1	職名	教授

3. 動物実験実施者

	フリガナ 氏名 メールアドレス	所属名	職	教育訓練(登録番号) e-APRIN(AP) (旧 CITI Japan Program(Ref#))
1	シンセイシャ9 申請者9 demo9@example.co.jp	動物実験施設	准教授	<input checked="" type="radio"/> 受講:demo9 <input type="radio"/> 未受講 <input checked="" type="checkbox"/> 医学研究者標準コース(demo9) <input type="checkbox"/> 個別追加コースII ()

4. 使用動物

	動物種	系統	性別	匹数	微生物学的品質	入手先 (ブリーダー等)	備考
1	マウス	BALB/c	オス	50	SPF	×××	
2	マウス	BALB/c	メス	50	SPF	×××	

系統名は正式名称でなくても構いません。

匹数は特に重要です。

企業名、他大学名、

「研究計画および方法」欄の

自家繁殖など

匹数とあわせてください。

5. 実験場所

	名称	
1	動 121号室(P1)	動物実験施設内のほか、講座等ですでに学長承認を受けている実験室を選択ください。

6. 飼育室

	名称	ケージ	水滅菌	飼料滅菌	繁殖
1	305号室	<input checked="" type="radio"/> 床敷式 <input type="radio"/> 金網式 使用ケージ数 50 個 ケージ交換 1 回/週	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし 使用給水ビン数 50 個 給水回数 1 回/週	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし 給餌回数 1 回/週	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし 飼育室は医用動物資源支援部とのやりとりで決定されます。

7. 実験実施期間(最長5年度)

～ 2027年03月31日

8. 研究課題

ラットを用いたA薬剤が可移植性がんB株に与える増殖抑制効果について

9. 研究目的

移植可能なB腫瘍をラットの皮下に移植し、A薬剤の腫瘍増殖抑制効果を見る。

10. 研究概要

Wistarラットの雌雄にB腫瘍細胞を移植、〇x〇mmまでに増殖したところでA薬剤を経路を変えて投与する。毎週一回腫瘍の大きさを測定しながら薬剤を投与し、その薬剤の抗腫瘍効果を観察する。抗腫瘍効果が明らかになった時点で実験を終了する。

11. 研究計画および方法

- ・麻酔薬として、ペントバルビタール系、エーテルは不可。
- ・苦痛度はSCAWの苦痛のカテゴリーを参照して記載してください。
- ・安楽死の方法として、エーテルは使用不可。

研究計画および方法	令和元年度計画(年度は西暦でも良い) ・使用する動物と数: W6週齢のistarラット、雌雄各15頭を使用する。内訳は薬剤の項を参照。 ・腫瘍: 〇〇大学の〇〇先生より譲渡された〇〇株を使用する。なお、この株は微生物学検査によって動物実験に使用可能であることが保障されている。 ・移植方法: エーテル麻酔下で〇x10〇個を腹側部の皮下に移植する。 ・薬剤: A薬剤は〇〇としてすでに臨床に用いられている。溶剤で調製した薬剤を〇mg/kg投与する。なお、投与の経路は、皮下、腹腔および静脈とし、それぞれ、雌雄5頭ずつとする。 ・抗腫瘍効果の評価: 移植した腫瘍が〇x〇mmになったら、毎週1回腫瘍の大きさを測定と薬剤の投与を行なう。腫瘍が縮小してきたら、麻酔下で血液および腫瘍を採取、その後、過剰の麻酔薬を投与し、安楽死させる。 令和2年度計画(年度は西暦でも良い) ***** ・エンドポイントについて: 腫瘍の増殖が期待した速度よりも急で、大きさが過度になった時をエンドポイントと設定し、安楽死措置を講じ、実験を終了する。
備考	

「研究計画および方法」欄には当該年度の計画を詳細に記述すること。「令和元年度と同じ」のみのような記載は重複実験、無駄な実験、あるいは、計画性に欠ける実験とみなし、委員会は承認しません。同じ内容の部分については前年度と同様との記載、違う箇所があればその内容を記載してください。但し、適正な使用数であることを確認するため、マウス等の数の記載は必須です。

12. 研究についての参考事項

- ・ケタミンを使う場合、麻薬研究者氏名を記載
- ・遺伝子組換え動物使用実験、感染実験の場合、各委員会への申請状況又は承認番号を記載

複数年度で計画する場合は、計画を明確に記述できる年度(1~3年程度)で申請してください。なお、規程により最長5年度の計画を申請できます。

13. 特殊実験区分

1. 感染実験 分類: BSL1 BSL2 BSL3
2. 遺伝子組換え動物使用実験 区分: P1A P2A P3A
3. 放射性同位元素・放射線使用実験
4. 化学発癌・重金属使用実験
5. 該当なし

該当するものにチェック

14. 動物実験の種類

1. 試験・研究
2. 教育・訓練
3. その他

多くは、「1. 試験・研究」にチェック

15. 動物実験を必要とする理由

- 1. 動物実験に替わる手段がない
- 2. 代替手段の精度が不十分
- 3. その他

多くは「1. 動物実験に替わる手段がない」にチェック

16. 想定される苦痛の 카테고리

- B. 脊椎動物を用い、動物に対してほとんどあるいはまったく不快感を与えないと思われる実験。
- C. 脊椎動物を用い、動物に対して軽度のストレスまたは痛み(短時間持続するもの)を伴うと思われる実験。
- D. 脊椎動物を用い、回避できない重度のストレスまたは痛み(長時間持続するもの)を伴うと思われる実験。
- E. 無麻酔下の脊椎動物に耐えうる限界に近いまたはそれ以上の痛みを与えると思われる実験。

「研究計画および方法」欄の苦痛の 카테고리の記載とあうようにチェック

17. 苦痛軽減、排除の方法

- 1. 短時間の保定・拘束及び注射等、軽微な苦痛の範囲であり、特に処置を講ずる必要はない。
- 2. 科学上の目的を損なわない苦痛軽減方法は存在せず、処置できない。
- 3. 麻酔薬・鎮痛薬等を使用する。
(薬剤名・投与量・経路を記入) ○○○○・**mg・○○○
- 4. 動物が耐えがたい痛みを伴う場合、適切な時期に安楽死措置をとる等の人道的エンドポイントを考慮する。
- 5. その他(具体的に記入)

「研究計画および方法」欄の記載と整合性がとれるようにチェックし、麻酔薬等の場合は薬剤名等を入力

18. 安楽死の方法

- 1. 麻酔薬等の使用(薬剤名・投与量・経路を記入)
- 2. 炭酸ガス
- 3. 中枢破壊(具体的に記入)
- 4. 安楽死させない(その理由を記入)
- 5. その他(その理由を記入)

「研究計画および方法」欄の記載と整合性がとれるようにチェックし、「2. 炭酸ガス」以外の場合は指定の事項を入力

19. 動物死体の処理方法

- 1. 大学内で焼却
- 2. 外部業者に委託
- 3. 浜松市斎場へ搬入し、焼却
- 4. その他(具体的に記入)

多くは「3. 浜松市斎場へ搬入し、焼却」にチェック